

令和4年度
SYLLABUS

秋田市医師会立秋田看護学校

目次

教育課程	1
講師名簿	3
基礎分野	
情報リテラシー	5
生物学	6
論理学	7
教育学	8
人間関係論	9
文学	10
心理学	11
社会学	12
倫理学	13
スポーツ科学	14
家族関係論	15
看護におけるホスピタリティ	16
専門基礎分野	
からだの仕組みと働きⅠ・Ⅱ・Ⅲ	17
形態機能学	20
生化学	21
栄養学	22
微生物学	23
病態学総論	24
呼吸器の病態論	25
循環器の病態論	26
消化器の病態論	27
腎・泌尿器の病態論	28
健康科学	29
公衆衛生学	30
専門分野	
看護学概論	31
フィジカルアセスメント	32
基本的技術Ⅰ・Ⅱ	33
看護過程	35
日常生活の援助技術Ⅰ・Ⅱ	36
診療の補助技術Ⅰ	38
基礎看護学実習	39
秋田を知る	40
暮らしの理解	41
地域・在宅看護概論	42
暮らしと環境	43
地域・在宅看護論臨地実習	45

社会の中の成人看護	46
高齢者を支えるための看護	47

教育課程(科目別単位・時間数)

	科目	教科目	単位	時間	1年次						2年次						3年次											
					前期			後期			前期			後期			前期			後期								
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
					単位	時間	時間	単位	時間	時間	単位	時間	時間	単位	時間	時間	単位	時間	時間	単位	時間	時間	単位	時間	時間	単位	時間	時間
基礎分野	情報リテラシー		1	30	1	30																						
	生物学		1	30			1	30																				
	論理学		1	30			1	30																				
	教育学		1	15	1	15																						
	英語		1	30						1	30																	
	人間関係論		1	30	1	30																						
	文学		1	30	1	30																						
	心理学		1	30			1	30																				
	カウンセリング		1	30						1	30																	
	社会学		1	30	1	30																						
	倫理学		1	15			1	15																				
	スポーツ科学		1	30	1	30																						
	家族関係論		1	30			1	30																				
	看護におけるホスピタリティ		1	15	1	15																						
	基礎分野小計		14	375	7	180	5	135	2	60																		
専門基礎分野	からだの仕組みと働きⅠ		1	30	1	30																						
	からだの仕組みと働きⅡ		1	30	1	30																						
	からだの仕組みと働きⅢ		1	15			1	15																				
	形態機能学		1	30	1	30																						
	生化学		1	30			1	30																				
	栄養学		1	15			1	15																				
	微生物学		1	30			1	30																				
	病態学総論		1	15	1	15																						
	呼吸器の病態論		1	30			1	30																				
	循環器の病態論		1	30			1	30																				
	消化器の病態論		1	30			1	30																				
	腎・泌尿器の病態論		1	30			1	30																				
	内分泌・代謝・造血の病態論		1	30						1	30																	
	脳神経の病態論		1	15						1	15																	
	運動器の病態論		1	15						1	15																	
	生殖器の病態論		1	15								1	15															
	小児の病態論		1	15						1	15																	
	精神の病態論		1	30						1	30																	
	薬理学		1	30						1	30																	
	健康科学		1	15	1	15																						
	公衆衛生学		1	15			1	15																				
	社会福祉		1	30															1	30								
	チーム医療論		1	15															1	15								
	関係法規Ⅰ		1	15															1	15								
	関係法規Ⅱ		1	15															1	15								
		専門基礎分野小計		25	570	5	120	9	225	6	135	1	15						4	75								
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	30																						
		看護倫理	1	15					1	15																		
		看護研究概説	1	30																	1	30						
		フィジカルアセスメント	1	30	1	30																						
		基本的技術Ⅰ	1	15	1	15																						
		基本的技術Ⅱ	1	15	1	15																						
		看護過程	1	30			1	30																				
		日常生活の援助技術Ⅰ	1	15	1	15																						
		日常生活の援助技術Ⅱ	1	30	1	30																						
		診療の補助技術Ⅰ	1	15			1	15																				
		診療の補助技術Ⅱ	1	15								1	15															
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	45																						
		基礎看護学実習Ⅱ	1	45			1	45																				
		基礎看護学実習Ⅲ	2	90						2	90																	
		計	15	420	7	180	3	90		3	105	1	15								1	30						
	地域・在宅看護論	秋田を知る	1	15	1	15																						
		暮らしの理解	1	15	1	15																						
		地域・在宅看護概論	1	15	1	15																						
		暮らしと環境	1	30	1	30																						
		健康と暮らしを支える技術	1	30						1	30																	
		健康と暮らしを支える看護	1	30						1	30																	
臨地実習	地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90			2	90																					
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90								2	90																
	計	10	315	4	75	2	90		2	60	2	90																
成人・老年看護学	成人・老年期の生命の危機にある人の看護	1	30						1	30																		
	成人・老年期の生を支え再構築する看護	1	30						1	30																		
	計	2	60						2	60																		
成人看護学	社会の中の成人看護	1	15			1	15																					
	がんとともに生きる看護	1	30						1	30																		
	生きているための看護	1	30						1	30																		
	生きていくための看護	1	30						1	30																		
	成人看護技術	1	15						1	15																		
臨地実習	成人・老年健康管理実習	1	45						1	45																		
	周手術期実習	2	90									2	90															
	成人慢性・終末期実習	2	90									2	90															
	計	10	345			1	15		5	150	4	180																
老年看護学	高齢者を支えるための看護	1	15			1	15																					
	健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護	1	30						1	30																		
	高齢者のより健康な生活を支援する看護	1	30								1	30																
臨地実習	老年看護学実習	2	90									2	90															
	計	5	165			1	15		1	30	1	30						2	90									

小児看護学	社会の中でともに育つ子ども	1	30					1	30						
	健康障害を持つ子どもとその家族	1	30					1	30						
	子どもの病氣と看護	1	15							1	15				
	子どものケア	1	30							1	30				
臨地実習	小児看護学実習	2	90									2	90		
	計	6	195					2	60	2	45	2	90		
母性看護学	母性看護学概論	1	30					1	30						
	周産期ケア論	1	30							1	30				
	母性看護技術	1	15							1	15				
	周産期の健康逸脱と看護	1	30							1	30				
臨地実習	母性看護学実習	2	90									2	90		
	計	6	195					1	30	3	75	2	90		
精神看護学	精神看護学概論	1	30					1	30						
	精神看護技術	1	15					1	15						
	精神の健康障害と看護	1	30					1	30						
	精神障害者の日常生活援助	1	30							1	30				
臨地実習	精神看護学実習	2	90									2	90		
	計	6	195					3	75	1	30	2	90		
看護の統合と実践	国際看護	1	15									1	15		
	災害看護	1	15									1	15		
	看護マネジメントと医療安全	1	30									1	30		
	看護の統合	1	15									1	15		
臨地実習	看護の統合と実践	2	90											2	90
	計	6	165									4	75	2	90
専門分野小計		66	2055	11	255	7	210	19	570	14	465	12	435	3	120
総 合 計		105	3000	23	555	21	570	27	765	15	480	16	510	3	120

令和4年度 講師名簿

	科目名	教科目名	単位	時間	講師名	年次	時期	曜日	時間	
基礎分野	情報リテラシー		1	30	小林 秀樹	1	前期	火	9:00~10:30	
	生物学		1	30	河又 邦彦	1	後期	水	10:40~12:10	
	論理学		1	30	田子 多津子	1	後期	火	14:50~16:20	
	教育学		1	15	鈴木 翔	1	前期	水	9:00~10:30	
	英語		1	30	宮本 律子	2	前期			
	人間関係論		1	30	佐々木 久長	1	前期	木	9:00~10:30	
	文学		1	30	佐藤 雅彦	1	前期	木	10:40~12:10	
	心理学		1	30	森 和彦	1	後期	月	9:00~10:30	
	カウンセリング		1	30	濱田 拓	2	前期			
	社会学		1	30	和泉 浩	1	前期	水	10:40~12:10	
	倫理学		1	15	石川 千夏	1	後期	水	14:50~16:20	
					小田嶋 陽子	1	後期	水	14:50~16:20	
	スポーツ科学		1	30	松下 翔一	1	前期	水	13:30~15:30	
	家族関係論		1	30	佐々木 久長	1	後期	木	9:00~10:30	
	看護におけるホスピタリティ		1	15	皆川 千年	1	前期	金	9:00~10:30	
	専門基礎分野	からだの仕組みと働きⅠ		1	30	板東 良雄	1	前期	月	9:00~10:30 10:40~12:10
		からだの仕組みと働きⅡ		1	30		1	前期	月・火	9:00~10:30 10:40~12:10
からだの仕組みと働きⅢ			1	15	1		後期	火	9:00~10:30 10:40~12:10	
形態機能学			1	30	靱山 日出樹	1	前期	金	9:00~10:30	
					佐々木 寿美礼	1	前期	金	10:40~12:10	
生化学			1	30	眞崎 容子	1	前期	金	13:10~14:40	
栄養学			1	15	新田 智子	1	後期	水	13:10~14:40	
微生物学			1	30	原田 誠三郎	1	後期	金	9:00~10:30	
病態学総論			1	15	川村 公一	1	前期	月	14:50~16:20	
呼吸器の病態論			1	30	伊多波 未来	1	後期	木	14:50~16:20	
					福井 伸	1	後期	木	10:40~12:10	
循環器の病態論			1	30	阿部 芳久	1	後期	月	13:10~14:40	
消化器の病態論			1	30	小松 眞史	1	後期	月	14:50~16:20	
					中根 邦夫					
					大野 秀雄					
					辻 剛俊					
腎・泌尿器の病態論			1	30	大谷 浩	1	後期	金	14:50~16:20	
	石田 俊哉				1	後期	金	14:50~16:20		
内分泌・代謝・造血の病態論		1	30	成田 琢磨	2	前期				
				山口 昭彦						
脳神経の病態論		1	15	大川 聡	2	前期				
運動器の病態論		1	15	畠山 雄二	2	前期				
生殖器の病態論		1	15	軽部 裕子	2	後期				
小児の病態論		1	15	武田 修	2	前期				
精神の病態論		1	30	水俣 健一	2	前期				
薬理学		1	30	時田 圭子	2	後期				
				藤原 洋之	2	後期				
				梅田 慎也	2	後期				
				門田 祥吾	2	後期				
健康科学		1	15	戸堀 文雄	1	前期	木	14:50~16:20		
				添野 武彦	1	前期	水	14:50~16:20		
社会学		1	30	米谷 恭一	3	前期	木	9:00~10:30		
チーム医療論		1	15	鎌田 玲子	3	前期				
関係法規Ⅰ		1	15	鈴木 克昌	3	前期				
関係法規Ⅱ		1	15	菊地 富貴子	3	前期				
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30		1	前期	金	10:40~12:10	
		看護倫理	1	15	小田嶋 陽子	2	前期			
		看護研究概説	1	30	京野 順子	2	前期・後期			
		フィジカルアセスメント	1	30	中川 まゆ子	1	前期	水	14:50~16:20	
		基本的技術Ⅰ	1	15	川口 菜緒美	1	前期	月・木	14:50~16:20	
		基本的技術Ⅱ	1	30	川口 菜緒美	1	前期	金	13:10~14:40 14:50~16:20	
		看護過程	1	30	川口 菜緒美	1	後期	火	13:10~14:40	
		日常生活の援助技術Ⅰ	1	15	川口 菜緒美	1	前期	木	13:10~14:40 14:50~16:20	
		日常生活の援助技術Ⅱ	1	30	小田嶋 陽子	1	前期	月	13:10~14:40	
		診療の補助技術Ⅰ	1	15	中川 まゆ子	1	後期	火	13:10~14:40	
		診療の補助技術Ⅱ	1	15	小田嶋 陽子	2	後期			

臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	川口 菜緒美	1	前期		
	基礎看護学実習Ⅱ	1	45	中川 まゆ子	1	後期		
	基礎看護学実習Ⅲ	2	90	川口 菜緒美	2	前期		
地域・在宅看護論	秋田を知る	1	15	新堀 道生	1	前期	火	13:10~14:40
				丸谷 仁美			木	13:10~14:40
				藤中 由美			火	13:10~14:40
				三浦 たみ子			火	13:10~14:40
				藤本 具子			火	13:10~14:40
	暮らしの理解	1	15	藤本 具子	1	前期	火	13:10~14:40
	地域・在宅看護概論	1	15	井上 千鶴子	1	前期	火	10:40~12:10
	暮らしと環境	1	30	井上 千鶴子	1	前期	水	9:00~10:30
健康と暮らしを支える技術	1	30	井上 千鶴子	2	前期			
健康と暮らしを支える看護	1	30	井上 千鶴子	2	前期			
臨地実習	地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90	井上 千鶴子	1	後期		
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90	井上 千鶴子	2	後期		
成人・老年看護学	成人・老年期の生命の危機にある人の看護	1	30	皆川 千年	2	前期		
	成人・老年期の生を支え再構築する看護	1	30	藤本 具子	2	後期		
成人看護学	社会の中の成人看護	1	15	高橋 文子	1	後期	木	13:10~14:40
	がんと共に生きる看護	1	30	皆川 千年	2	前期		
	生きていくための看護	1	30	皆川 千年	2	前期		
	生きていくための看護	1	30	高橋 文子	2	前期		
	成人看護技術	1	15	高橋 文子	2	前期		
臨地実習	成人・老年健康管理実習	1	45	高橋 文子	2	前期		
	周手術期実習	2	90	皆川 千年	2	後期		
	成人慢性・終末期実習	2	90	高橋 久美子	2	後期		
老年看護学	高齢者を支えるための看護	1	30	藤本 具子	1	前期		
	健康障害を持つ高齢者の回復を促す看護	1	30	藤本 具子	2	後期		
	高齢者のより健康な生活を支援する看護	1	15	藤本 具子	2	後期		
臨地実習	老年看護学実習	2	90	藤本 具子	3	前期		
小児看護学	社会の中で共に育つ子ども	1	30	薄田 悦子	2	前期		
	健康障害を持つ子どもとその家族	1	30	薄田 悦子	2	前期		
	子どもの病気と看護	1	15	薄田 悦子	2	後期		
	子どものケア	1	30	薄田 悦子	2	後期		
臨地実習	小児看護学実習	2	90	薄田 悦子	3	前期		
母性看護学	母性看護学概論	1	30	佐々木 寿美礼	2	前期		
	周産期ケア論	1	30	佐々木 寿美礼	2	後期		
	母性看護技術	1	15	佐々木 寿美礼	2	後期		
	周産期の健康逸脱と看護	1	30	佐々木 寿美礼	2	後期		
臨地実習	母性看護学実習	2	90	佐々木 寿美礼	3	前期		
精神看護学	精神看護学概論	1	30	京野 順子	2	前期		
	精神看護技術	1	15	京野 順子	2	前期		
	精神の健康障害と看護	1	30	京野 順子	2	前期		
	精神障害者の日常生活援助	1	30	京野 順子	2	後期		
臨地実習	精神看護学実習	2	90	京野 順子	3	前期		
看護の統合と実践	国際看護	1	15	新沼 剛	3	前期		
	災害看護	1	15	藤田 正子	3	前期		
	看護マネジメントと医療安全	1	30	吹谷 由美子	3	前期		
				櫻田 明子	3	前期		
	看護の統合	1	15	皆川 千年	3	前期		9:00~10:30
臨地実習	看護の統合と実践	2	90	皆川 千年	3	後期		
カウンセラー				戸田 幸子				

基礎分野

科目名		講義担当		所属	
情報リテラシー		小林 秀樹		有限会社ネットパーソンズ	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
実際にパソコンを操作しながら、知識及び基本的操作テクニックを習得しましょう。					
科目のねらい・授業目標					
パソコン及び基本アプリケーションの基本操作方法を習得する。 インターネットの関わる基本リテラシーを高める。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1 回目	パソコンの基本操作と扱う際の注意			講義・演習	
2 回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
3 回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
4 回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
5 回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
6 回目	Microsoft PowerPoint の操作			講義・演習	
7 回目	Microsoft PowerPoint の操作			講義・演習	
8 回目	Microsoft Word.Excel. PowerPoint のまとめ			テスト/課題	
9 回目	クラウド上でのファイル処理			講義・演習	
10 回目	インターネットセキュリティ			講義・演習	
11 回目	情報収集/検索のしかた			講義・演習	
12 回目	情報の取捨選択・ファクトチェック			講義・演習	
13 回目	看護/医療に関わる統計処理			講義・演習	
14 回目	看護/医療に関わる統計処理			講義・演習	
15 回目	看護/医療に関わる統計処理			講義・演習	
16 回目	試験			テスト/課題	
評価方法					
課題提出 30 点 ポストテスト 70 点					
使用するテキスト					
医療・看護系のための情報リテラシー/東京図書					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
生物学		河又 邦彦		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 暗記に頼らない勉強法を身につけましょう。細部の事象を覚えるのではなく、生物全体の仕組みを捉えるように心がけましょう。					
科目のねらい・授業目標 生命の概要を理解することを目的とする。 1) 生体分子を4つあげ、その構造を説明できる。 2) 代謝について理解している。 3) 酵素と遺伝子の関係を説明できる。 4) 細胞分裂、減数分裂における染色体の挙動を説明できる。					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	生命とは		講義		
2回目	生体を構成する分子(タンパク質)		講義		
3回目	生体を構成する分子(核酸)		講義		
4回目	生体を構成する分子(糖質・脂質)		講義	小テスト①	
5回目	原核細胞		講義		
6回目	真核細胞		講義		
7回目	組織とは		講義	小テスト②	
8回目	遺伝情報の流れ(DNAの複製)		講義		
9回目	遺伝情報の流れ(転写)		講義		
10回目	遺伝情報の流れ(翻訳)		講義	小テスト③	
11回目	代謝とは		講義		
12回目	呼吸		講義		
13回目	光合成の概要		講義		
14回目	細胞周期と体細胞分裂		講義		
15回目	減数分裂		講義	小テスト④	
16回目	試験				
評価方法 小テスト①-④(40%)および試験(60%)により評価する					
使用するテキスト プリントを配布する					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 論理学		講義担当 田子 多津子		所属 前職 日本赤十字秋田看護大学非常勤講師	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 物事を論理的に考える論理的思考能力を養う。 1, 論理学の基礎 2, 論理的思考とは何か 3, 論理的思考の実践 (様々な事実や情報の分析に基づいて問題を解決する思考力を養う)					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	導入ー論理とは		講義・演習		
2回目	伝わる書き方の練習		講義・演習		
3回目	接続表現に注意する(小テスト)		講義・演習		
4回目	"		講義・演習		
5回目	"		講義・演習		
6回目	議論の骨格をとらえる(小テスト)		講義・演習		
7回目	"		講義・演習		
8回目	"		講義・演習		
9回目	論証ー推論(演繹)と推測の違い		講義・演習		
10回目	仮説形成		講義・演習		
11回目	三段論法、暗黙の前提		講義・演習		
12回目	条件構造(1)ー「ならば」の構造、逆・裏・対偶		講義・演習		
13回目	条件構造(2)ー逆は必ずしも真ならず		講義・演習		
14回目	否定の論理(1)		講義・演習		
15回目	否定の論理(2)		講義・演習		
16回目	試験				
評価方法 授業中の小テスト(40%)と最終の試験(60%)により評価する。					
使用するテキスト 必要に応じてプリントを配布する。 参考書は授業中に適宜紹介する。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
教育学		鈴木 翔		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 様々な教育事象に興味を持ち、疑問を持つようにしてください。					
科目のねらい・授業目標 学校や教育と社会の関係性について、さまざまな疑問を持ち、教育社会学が培ってきた理論やデータに基づいて、自分なりの答えを導き出せるようになることを目指します。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	イントロダクションー学校ってなんだろう			講義・演習	
2回目	いじめってなんだろう／登校ってなんだろう			講義・演習	
3回目	友だちってなんだろう／恋愛ってなんだろう			講義・演習	
4回目	キャラってなんだろう／ジェンダーってなんだろう			講義・演習	
5回目	試験ってなんだろう／ヤンキーってなんだろう			講義・演習	
6回目	教師ってなんだろう／家族ってなんだろう			講義・演習	
7回目	将来ってなんだろう／教育リスクってなんだろう			講義・演習	
8回目	試験				
評価方法 最終レポート 100%					
使用するテキスト					
参考文献 授業中に紹介します。					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
人間関係論		佐々木 久長		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 人間関係の基礎的理論を習得する 1, 人間関係の基礎とコミュニケーション 2, 看護における人間関係 4, カウンセリング技法の基礎 5,					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	関係の主体者としての「私」			講義(一部演習)	
2回目	人間の存在性について				
3回目	出会いと関係性にする理解				
4回目	コミュニケーションの基本的理解				
5回目	傾聴とロールプレイ				
6回目	うつ状態にある人への対応				
7回目	希死念慮のある人への対応				
8回目	交流分析の理解				
9回目	交流分析の理解				
10回目	患者と看護師の人間関係				
11回目	患者と看護師の人間関係				
12回目	カウンセリング技法の基礎				
13回目	カウンセリング技法の基礎				
14回目	人間関係における病理				
15回目	まとめ				
16回目	試験				
評価方法					
試験とレポート					
使用するテキスト					
授業中に資料を配付する					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
文学		佐藤 雅彦		JET 日本語集中講座事務局代表者 秋田大学国際交流センター非常勤講師	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 授業は予習を前提としてすすめます。					
科目のねらい・授業目標 深い洞察力と豊かな感性を育て、読解力や表現力を育てる。 看護の対象である人間を理解し、人を思いやれる豊かな人間性を育てる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	ガイダンス			講義・演習	
2回目	文学作品およびその映像化作品などに接する 要旨、感想などを他の人が読んでわかるように書く 論理的に文章を書くときのポイント データ類から情報を読み取る 授業のまとめ			講義・演習	
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目	期末テスト				
評価方法 評価は以下の観点から行います。 小テスト30%、期末テスト30%、文章作成30%、授業への参加度10%					
使用するテキスト 授業中に資料を配付します。					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
心理学		森 和彦		秋田大学名誉教授	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 授業の進め方等は、シャトルカードの返還等による前回の補足説明→講義の聴取によるノート作成→シャトルカードの提出→ノートによるテキスト編集(放課後)の手順で進めます。看護師養成のための基礎科目であるため、聴解力、読解力、集中力を必要とするかなり厳しい授業になります。講義の場に座っているだけでは受講とは言えません。積極的な取り組みを期待します。					
科目のねらい・授業目標 生涯発達心理学を軸に、看護師にとって必要な心理学的知見を概観し、自己研鑽・現場実践に役立つよう理解する。 ＊特に援助専門家とクライアントの心理的レジリエンスの視点は重要					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	「心の科学」についての理解			講義	
2回目	生涯発達の視点・背景を理解する。			講義	
3回目	発達障碍の概念と「できる/できない」の捉え方			講義	
4回目	赤子の基本的感覚・認知・行動を理解			講義	
5回目	気質(特性論的理解と支援の在り方)とその発達			講義と演習	
6回目	ヒトのコミュニケーションの発達過程の理解			講義	
7回目	幼児からの自己中心性について考察する。			講義	
8回目	意図の読み取りの発達について理解			講義	
9回目	青年期の特徴と発達課題の理解			講義と演習	
10回目	自己認知・対人認知のゆがみを理解する。			講義	
11回目	ヒトの選択構造化戦略について理解する。			講義と演習	
12回目	ストレスマネジメントとLife Skillの獲得			講義	
13回目	生きる力(Key Competency)の発達理解			講義	
14回目	恋愛・結婚・子育ての心理学的知見を学ぶ			講義	
15回目	加齢と成熟発達の心理学的知見を学ぶ。			講義	
16回目	試験			ペーパー試験	
評価方法 筆記課題試験で成績は決まる。理解の確認など必要に応じて課題レポート提出およびノート提出を求める。試験も提出物も最低出席数も合格必要条件課題であるが、合格十分条件ではない。また答える量や枚数の多さも合格十分条件にならない。					
使用するテキスト テキスト: 発達心理学 ～現代心理学入門2～ 岩波書店 ISBN4-00-003922-9					
参考文献 参考書: 参考プリントなど随時紹介・配付する。 「心理学小辞典」は予習、復習、試験勉強に大変役立ちます。各自自分に分かり易い辞典を手元に置くようにしてください。					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
社会学		和泉 浩		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>看護の対象である人間の社会的行為、社会関係、社会集団、社会の構造を学び、社会的存在として理解する。家族についての基礎的理解と家族が直面している現実問題について理解する。</p> <p>1, 社会の概念 2, 社会を形成する基礎的要素 3, 社会集団と社会行為 4, 家族のあり方と現実問題</p>					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	社会学の考え方		講義		
2回目	社会学誕生の背景		講義		
3回目	代表的な社会学者の社会理論		講義		
4回目	社会調査と統計		講義		
5回目	健康格差、平等をめぐる問題		講義		
6回目	医療と健康、看護の社会		講義		
7回目	鮮明倫理(バイオエシックス)と社会		講義		
8回目	試験				
	各テーマを1回から3回の授業で扱いますが、授業の進行具合により内容を変更することがあります。				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
授業内容に関連する文献等をそのつど指示します。					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 倫理学	講義担当 石川 千夏 小田嶋 陽子	所属 市立秋田総合病院副看護部長 秋田市医師会立秋田看護学校			
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>受講上の留意点 第1回から第4回までは講義終了時にリフレクションカードを記入してもらう。講義を受けた内容について色々な視点から自由に自分自身の考えを述べる。</p> <p>科目のねらい ・倫理学の学びを通し、「人間としてどうあるべきか」、さらには、「看護師としてどうあるべきか」を考え続けていく姿勢をもってもらいたい。</p> <p>授業目標 ・現代社会の生命倫理の諸問題を倫理的な視点から考察できる。</p>					
授業回数	学習内容と成果	方法	備考		
1回目	倫理学とは—人間はどう生きる？ ・倫理とは何か 倫理学の歴史・分野等について ・看護倫理への応用について	講義			
2回目	功利主義・義務論・徳倫理学について—「幸福」を求めるべき？ 「義務」をなすべき？それとも「徳」をつむ？ ・功利主義と義務論と徳倫理学の立場について	講義			
3回目	徳倫理学—よい人は良い行いをする？ ・看護師に求められる「徳」の歴史について ・ナイチンゲールの看護教育にみられる厳格主義等	講義			
4回目	正義・自由・平等について—医療者と患者関係 ・パターナリズムが主流だった時代から、患者の権利が重要視されるインフォームドコンセントの時代へ ・医療原則を知り、義務論・功利主義・徳倫理学の立場から考えてみる。	講義			
5回目	保健・医療・福祉の現状と課題 看護職の倫理綱領、看護師の役割と責務 価値観について	講義			
6回目	倫理原則について 看護職が臨床で直面することの多い臨床倫理問題 ・患者の自己決定支援に関すること SDM(shared decision making)	講義			
7回目	尊厳について 看護職が臨床で直面することの多い臨床倫理問題 ・終末期医療に関すること	講義			
8回目	試験/討議	試験/討議			
<p>評価方法 筆記試験</p> <p>使用するテキスト 『看護倫理[(系看)別巻]』医学書院</p> <p>参考文献 『プレップ倫理学<増補版>』柘植 尚則著 弘文堂 『看護倫理 NICE 改訂第3版』南江堂</p>					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
スポーツ科学		松下 翔一		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 スポーツ実践に適した服装や履物を準備すること。					
科目のねらい・授業目標 健康と生活において、生活習慣の中の運動について重要性を理解し、健全な心身を養う。 1, 理論と方法 2, 技術の習得					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回～9回	学習目標を達成するために、必要な施設・用具の調った各種スポーツ種目(バレーボール、卓球、バドミントン等)をゲーム中心に実践する。また、準備・整理運動のり重要性を理解させ、自己やケガの防止に努める。			講義	
	グループづくり			実技および演習	
	各種スポーツ種目のルールおよび技能についての学習			〃	
	各種スポーツ種目の実践			〃	
10回目	まとめ				
評価方法 出席状況(50%)、授業時の活動状況(30%)、学習意欲(20%)					
使用するテキスト 必要に応じてプリントを配布する。					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
家族関係論		佐々木 久長		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
特になし					
科目のねらい・授業目標					
1, 看護の対象としての家族の基本概念について理解する。					
2, 家族看護の基本概念と家族看護のプロセスについて理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	家族とは何か(家族構造と機能の理解)			講義	
2回目	発達する家族(家族のライフサイクル)			講義	
3回目	システムとしての家族			講義	
4回目	家族を理解するポイント			講義	
5回目	家族ストレスと危機の理解と対応			講義	
6回目	集団としての家族と役割構造			講義	
7回目	家族内コミュニケーションの理解			講義	
8回目	家族療法の基本的理解			講義	
9回目	家族療法の理論			講義	
10回目	家族とパートナーシップとセルフケア			講義	
11回目	家族アセスメント			講義	
12回目	家族と地域・家族と文化			講義	
13回目	実践例の理解 DV/子どもケア/心の問題			講義	
14回目	実践例の理解 臓器提供/壮年期の癌/難病			講義	
15回目	実践例の理解 高齢社会後/終末期			講義	
16回目	試験				
評価方法					
試験(70%)+レポート(20%)+出席状況(10%)					
使用するテキスト					
山崎あけみ他:家族看護学:南江堂					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 看護における ホスピタリティ		講義担当 皆川 千年		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
<p>受講上の留意点</p> <p>業種を問わず、これまでの顧客体験から、</p> <ol style="list-style-type: none"> 心地よいと感じた接客サービス 嫌な思いをした接客サービスについてまとめておきましょう。 <p>学習効果を高めるため演習を実施します。 臨地実習においても活用していきますので積極的に参加しましょう。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>1. 接遇は組織のイメージを大きく左右するものである。 医療組織の一員としての意識を持ち、療養生活を支える心と技術を習得する</p>					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1 回目	ホスピタリティに関する基礎的知識について理解できる。 1) 看護師としての心を養う			講義	
2 回目	2) 身に付けておきたい基本マナーと接遇			講義・演習	
3 回目	医療安全と接遇について理解できる。 1) 看護師だからこそ必要なマナーと接遇			講義・演習	
4 回目	自分と患者を守るコミュニケーション力を習得できる。 1) コミュニケーションスキルを身に付けよう			講義・演習	
5 回目	生活場面における接遇の基本について理解できる。 1) 地域・在宅訪問時のお作法			講義・演習	在宅実習室使用
6 回目	実習場面でのホスピタリティについて理解できる。 1) これでカンペキ！私たちの実習前チェック！（基礎）			講義・演習	
7 回目	2) これでカンペキ！私たちの実習前チェック！（実践）			講義・演習	ユニフォームを着用し参加のこと
8 回目	試験 まとめ				
<p>評価方法</p> <p>筆記試験・課題レポート</p>					
<p>使用するテキスト</p>					
<p>参考文献</p> <p>ナースのためのマナー&接遇術(中央法規)、事例から学ぶ地域・在宅看護論(医学書院)、看護学生のための臨地実習ナビ(照林社)</p>					

秋田市医師会立秋田看護学校

專門基礎分野

科目名		講義担当		所属	
からだの仕組みと働き I		板東 良雄		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 教科書等をあらかじめ見ておき、学習する内容についてある程度イメージできていることが望ましい。この科目は医学の根幹をなし、すべての科目に関連しているといっても過言ではないため、本来は試験に受かることが目的ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが重要である。しかしながら、知識量が膨大で講義を一度聞いただけではなかなか理解できず、まとめて短期間に修得するのも難しい。そのため、多くの学生が国家試験前でも苦手としているので、日々少しずつ努力を積み重ねていくことが望まれる。					
科目のねらい・授業目標 臨床現場で必要となる各疾患の病態を修得して診療を実践していくために、人体を構成する臓器や組織がどのように形成・構築され(解剖)、どのような機能を担っているか(生理)について統合的に理解する。 1) 主要器官・組織の正常機能とその仕組みの概要を説明できる。 2) 疾患の多くは正常構造や機能の異常によって生じることを理解する。 3) 病態生理学の理解につながるような知識・考え方を身につける。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)			講義	
2回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)			講義	
3回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)			講義	
4回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)			講義	
5回目	身体の支持と運動(骨格)			講義	
6回目	身体の支持と運動(骨格)			講義	
7回目	身体の支持と運動(骨格)			講義	
8回目	身体の支持と運動(関節)			講義	
9回目	身体の支持と運動(筋肉)			講義	
10回目	身体の支持と運動(筋肉)			講義	
11回目	身体の支持と運動(筋肉)			講義	
12回目	血液			講義	
13回目	免疫			講義	
14回目	免疫			講義	
15回目	免疫			講義	
16回目	試験				
評価方法 試験の成績および出席状況を加味し、総合的に評価する。講義中に小テストなどの形成試験を行う場合にはあらかじめ通知する。					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①					
参考文献 トートラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)					

科目名		講義担当		所属	
からだの仕組みと働きⅡ		板東 良雄		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 教科書等をあらかじめ見ておき、学習する内容についてある程度イメージできていることが望ましい。この科目は医学の根幹をなし、すべての科目に関連しているといっても過言ではないため、本来は試験に受かることが目的ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが重要である。しかしながら、知識量が膨大で講義を一度聞いただけではなかなか理解できず、まとめて短期間に修得するのも難しい。そのため、多くの学生が国家試験前でも苦手としているので、日々少しずつ努力を積み重ねていくことが望まれる。					
科目のねらい・授業目標 臨床現場で必要となる各疾患の病態を修得して診療を実践していくために、人体を構成する臓器や組織がどのように形成・構築され(解剖)、どのような機能を担っているか(生理)について統合的に理解する。 1) 主要器官・組織の正常機能とその仕組みの概要を説明できる。 2) 疾患の多くは正常構造や機能の異常によって生じることを理解する。 3) 病態生理学の理解につながるような知識・考え方を身につける。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	循環器			講義	
2回目	循環器			講義	
3回目	循環器			講義	
4回目	呼吸器			講義	
5回目	呼吸器			講義	
6回目	呼吸器			講義	
7回目	消化器			講義	
8回目	消化器			講義	
9回目	消化器			講義	
10回目	泌尿器			講義	
11回目	生殖器			講義	
12回目	生殖器			講義	
13回目	内分泌			講義	
14回目	内分泌			講義	
15回目	内分泌			講義	
16回目	試験				
評価方法 試験の成績および出席状況を加味し、総合的に評価する。講義中に小テストなどの形成試験を行う場合にはあらかじめ通知する。					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①					
参考文献 トートラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)、					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
からだの仕組みと働きⅢ		板東 良雄		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 教科書等をあらかじめ見ておき、学習する内容についてある程度イメージできていることが望ましい。この科目は医学の根幹をなし、すべての科目に関連しているといっても過言ではないため、本来は試験に受かることが目的ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが重要である。しかしながら、知識量が膨大で講義を一度聞いただけではなかなか理解できず、まとめて短期間に修得するのも難しい。そのため、多くの学生が国家試験前でも苦手としているので、日々少しずつ努力を積み重ねていくことが望まれる。					
科目のねらい・授業目標 臨床現場で必要となる各疾患の病態を修得して診療を実践していくために、人体を構成する臓器や組織がどのように形成・構築され(解剖)、どのような機能を担っているか(生理)について統合的に理解する。 1) 主要器官・組織の正常機能とその仕組みの概要を説明できる。 2) 疾患の多くは正常構造や機能の異常によって生じることを理解する。 3) 病態生理学の理解につながるような知識・考え方を身につける。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	神経(中枢神経)			講義	
2回目	神経(中枢神経)			講義	
3回目	神経(末梢神経)			講義	
4回目	神経(末梢神経)			講義	
5回目	神経(自律神経)			講義	
6回目	感覚器・皮膚			講義	
7回目	感覚器・皮膚			講義	
8回目	試験				
評価方法 試験の成績および出席状況を加味し、総合的に評価する。講義中に小テストなどの形成試験を行う場合にはあらかじめ通知する。					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①					
参考文献 トートラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)、					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 形態機能学		講義担当 勅山 日出樹 佐々木 寿美礼		所属 学校法人コア学園秋田リハビリテーション学院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年次前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 人間が日常生活を営む上で、どのように身体の構造と機能を使い、生活者として暮らしているかを学び、援助技術の基礎とする。 看護実践に生かすために身体の作用機序・調整機構など正常な身体の基礎知識を理解する。					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1 回目	消化器① 嚥下のしくみ、口腔、食道、胃、小腸、大腸のはたらきについて理解できる		講義	教科書 資料	
2 回目	消化器② 肝臓、胆嚢、胆管および膵臓の機能、消化・吸収のしくみについて理解できる。		講義	教科書 資料	
3 回目	血液 血液の成分とそれぞれの機能、血液凝固・免疫系のしくみについて理解できる。		講義	教科書 資料	
4 回目	循環器・呼吸器① 心臓、血管、リンパ、気道、肺の機能、血圧の調節の仕組みについて理解できる。		講義	教科書 資料	
5 回目	循環器・呼吸器② 外呼吸と内呼吸、ガス運搬、呼吸運動と調節のしくみについて理解できる。		講義	教科書 資料	
6 回目	泌尿器① 腎臓の機能、尿の生成と再吸収、排泄のしくみについて理解できる。		講義	教科書 資料	
7 回目	泌尿器② 浸透圧と体液量調節について理解できる。		講義	教科書 資料	
8 回目	内分泌系① ホルモンの作用機序、全身の内分泌腺とその作用について理解できる。		講義	教科書 資料	
9 回目	内分泌系② ホルモンによる恒常性維持のしくみと調節の実際について理解できる。		講義	教科書 資料	
10 回目	神経系① 中枢神経系(脳・脊髄)の調節機構について理解できる。		講義	教科書 資料	
11 回目	神経系② 末梢神経系(脳神経・脊髄神経・自律神経)の調節機構について理解できる。		講義	教科書 資料	
12 回目	運動器① 骨格・骨格筋・関節のしくみと反射・随意運動のメカニズムについて理解できる。		講義	教科書 資料	
13 回目	運動器② 筋の収縮機構、日常生活での基本的動きと骨・骨格筋・関節との関連について理解できる。		講義	教科書 資料	
14 回目	感覚器 眼と視覚、耳と聴覚、鼻と嗅覚、舌と味覚、皮膚と触覚について理解できる。		講義	教科書 資料	
15 回目	生殖器 生殖器の機能と性周期、生殖・発生までのしくみについて理解できる。		講義	教科書 資料	
16 回目	試 験				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①、医学書院					
参考文献 看護 形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子、日本看護協会出版会					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
生化学		眞崎 容子		佐野薬局	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 ・受講後復習を行い、内容を理解する					
科目のねらい・授業目標 1. 生命現象が化学反応であることを理解する 2. 生命の維持に必要な栄養素の代謝について全体像を理解する 3. 遺伝情報発現の仕組みを理解する					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	生化学に必要な化学の基礎知識			講義	
2回目	糖質 1 構造と機能			講義	
3回目	糖質 2 消化・吸収・代謝			講義	
4回目	脂質 1 構造と機能			講義	
5回目	脂質 2 消化・吸収・代謝			講義	
6回目	タンパク質 1 構造と機能			講義	
7回目	タンパク質 2 消化・吸収・代謝			講義	
8回目	酵素			講義	
9回目	ビタミンとミネラル			講義	
10回目	ホルモンと情報伝達			講義	
11回目	遺伝情報とその発現 1 核酸			講義	
12回目	遺伝情報とその発現 2 遺伝子			講義	
13回目	遺伝情報とその発現 3 タンパク質の生合成			講義	
14回目	遺伝情報とその発現 4 //			講義	
15回目	遺伝情報とその発現 5 細胞の増殖と分化			講義	
16回目	試験				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎 生化学 人体の構造と機能 2 医学書院					
参考文献 シンプル生化学 南江堂					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
栄養学		新田 智子		あきた東内科クリニック	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 看護の対象となる人々の健康の保持・増進・あるいは回復のために健康な食生活が営まれるように援助するための専門知識を学ぶ。 1. 栄養とは 2. 栄養素の役割 3. 栄養所要量とエネルギー代謝 4. 食事療法の基礎					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	人間栄養学と看護 栄養素の種類とはたらき			講義	
2回目	食物の消化と栄養素の吸収・代謝			講義	
3回目	エネルギー代謝 食事と食品			講義	
4回目	栄養ケア・マネジメント 栄養状態の評価・判断			講義	
5回目	ライフステージと栄養			講義	
6回目	臨床栄養			講義	
7回目	臨床栄養、健康づくりと食生活			講義	
8回目	試験				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野,「栄養学」人体の構造と機能 3, 医学書院					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 微生物学		講義担当 原田 誠三郎		所属 前職 秋田県総合保険事業団	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 予習・復習を十分に行うこと。					
科目のねらい・授業目標 微生物の基礎、感染とその防御および病原微生物に関連する事項について理解する					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
	微生物学の基礎				
1回目	微生物と微生物学			講義	
2回目	細菌の性質			講義	
3回目	真菌の性質			講義	
4回目	原虫の性質			講義	
5回目	ウィルスの性質			講義	
6回目	感染とその防御			講義	
	感染と感染症				
7回目	感染に対する生体防御機構			講義	
8回目	感染源・感染経路からみた感染症			講義	
9回目	滅菌と消毒			講義	
10回目	感染症の検査と診断			講義	
11回目	感染症の治療			講義	
12回目	感染症の現状と対策			講義	
	おもな病原微生物				
13回目	病原細菌と細菌感染症			講義	
14回目	病原真菌と真菌感染症			講義	
15回目	病原原虫と原虫感染症			講義	
16回目	病原ウィルスとウィルス感染症			講義	
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 「微生物学」医学書院					
参考文献 参考図書 標準微生物学第14版 (監修)神谷茂、(編集)錫谷達夫、松本哲哉 医学書院					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 病態学総論		講義担当 川村 公一		所属 早稲田大学先進理工学部	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 疾病の要因や発生病理の特徴及び形態・機能の病変の機序を理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	<p>講義の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学は病気の原因、成立過程、その結果について学ぶ分野で、初めに病気の基礎概念とそれに関する用語を説明する。 2. 病気の分類として炎症、腫瘍、循環障害、先天異常などがあるが、これを理解する際に肝硬変、脳卒中、胃癌、感染症、遺伝病などの具体的な症例を挙げて説明する。 3. 授業の前半は板書を交えた講義を行う。後半はプロジェクターの投影による病変画像を提示して、医学用語と形態像の対応を行う。 4. 授業内容の概略、要点はあらかじめプリントを配布する。復習を主体とする自主学習を促し、授業内容の質問はメールでも対応する。 <p>講義の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学と細胞：肝硬変の主な原因を挙げ、なぜ生命に危険かを理解する。 2. 腫瘍：腫瘍の分類、形態発育、胃癌のボールマン分類を理解する。 3. 細胞傷害：細胞変性、壊死、萎縮、褥瘡を理解する。 4. 循環障害：心筋梗塞、動脈瘤、粥上硬化症、塞栓症、脳卒中を理解する。 5. 浮腫：浮腫の起こる原因とその具体例、ネフローゼ症候群を理解する。 6. 先天異常：染色体異常と遺伝子レベルの異常を理解する。 7. 炎症と感染症：膿瘍、炎症細胞、エイズ、真菌、原虫感染を理解する。 8. 病態組織を顕微鏡で確認し、知識の理解を深める。(演習) 			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目	試験				
評価方法 筆記試験(プリントと教科書の内容)					
使用するテキスト 大橋健一他、系統看護学講座 病理学 医学書院					
参考文献					

科目名 呼吸器の病態論		講義担当 伊多波 未来 福井 伸		所属 秋田赤十字病院附属あきた健康管理センター 秋田厚生医療センター	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 ・呼吸器障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1 呼吸器系の基礎			講義	
2回目	1)呼吸器の構造と機能				
3回目	2)症状とその病態について				
4回目	2 呼吸器系の臨床				
5回目	1)診断・検査・治療・処置について				
6回目	(1)検査 画像・内視鏡・生検				
7回目	(2)治療・処置 吸入療法・酸素療法・ 胸腔ドレナージ・手術療法				
8回目	2)疾患の理解				
9回目	(1)感染症				
10回目	(2)間質性肺疾患・起動疾患・呼吸器不全・肺腫瘍・ 胸膜疾患				
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験によるが授業態度も加味する。					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「呼吸器」成人看護学2, 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
循環器の病態論		阿部 芳久		市立秋田総合病院	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
循環器機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1 心臓の解剖と生理 特に肉眼的解剖 (この理解があって初めて次のステップへ進める。) 2 虚血性心疾患 1) 動脈硬化の成因(危険因子とその管理を含む) 2) 狭心症の病態、診断、治療 3) Acute Coronary Syndrome(急性冠症候群)の病態、診断、治療 3 不整脈 1) 心臓刺激伝導系の理解と心電図上の意味 2) 徐脈性不整脈の病態、診断、治療 3) 頻脈性不整脈の病態、診断、治療 4) 致死性不整脈の理解 4 高血圧 1) 血圧とは何か？ 2) 血圧の正しい測り方 3) 高血圧の治療はなぜ必要か 5 心不全 右心不全、左心不全、両心不全の病態、基礎疾患の理解 6 血管疾患 閉塞性動脈硬化症、大動脈瘤、肺梗塞の理解 7 過去の国家試験問題の解説			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目					
評価方法					
筆記試験によるが授業態度も加味する					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「循環器」成人看護学3, 医学書院					
参考文献					

科目名 消化器の病態論		講義担当 小松 眞史 中根 邦夫 大野 秀雄 辻 剛俊 津田 聡子		所属 市立秋田総合病院	
履修時期	1年前・後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 消化器機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
科目のねらい・授業目標					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1 消化器系の機能障害の基礎 1)栄養の摂取・吸収の障害 2)消化器機能の障害 2 消化器系の臨床 1) 特有な症状:嚥下困難・食欲不振・胸やけ・嘔吐・下血・黄疸 2)特有な検査:造影・内視鏡・生検・超音波 3)特有な治療・処置:薬物療法・食事療法・手術療法・放射線療法 3 消化器疾患の症状・検査 1)上部消化器疾患 食道癌・胃癌 2)下部消化器疾患 イレウス・大腸癌・直腸癌 3)胆嚢 胆嚢炎・胆嚢癌 4)肝臓 肝臓炎・肝臓癌 5)膵臓 膵炎・膵癌			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目					
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「消化器」成人看護学5, 医学書院					
参考文献					

科目名 腎・泌尿器の病態論		講義担当 大谷 浩 石田 俊哉		所属 秋田厚生医療センター 市立秋田総合病院	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 人体の構造、人体の機能、循環器の病態を理解しておくこと					
科目のねらい・授業目標 排泄機能障害の特徴と治療・検査について理解する。 1. 腎機能の障害					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	I 腎 (15時間) 1)腎の解剖 2)腎の生理・働き 3)腎機能検査および腎機能障害時の症状尿・血液・画像検査など 4)腎障害時の特有な疾患 ①急性腎不全 ②慢性糸球体腎炎 ③慢性腎不全 5)治療 ①食事療法 ②薬物療法 ③透析療法 II 泌尿器・生殖器 (15時間) 特有な疾患のポイントを国家試験などから絞り込んで講義する。 1. 泌尿器機能障害の病態生理 1)暴行腫瘍・膀胱癌・腎盂尿管癌・腎癌 2)尿路の疾患・失禁・神経因性膀胱 3)結石 2. 生殖器機能障害の病態生理 1)前立腺肥大症・前立腺癌・精巣腫瘍 2)性器の腫瘍・不妊症 3. 症 状 ・勃起障害・生殖器異常 4. 検 査 ・生検・外内診 5. 治療・処置 ・化学療法・放射線療法・ホルモン療法・手術療法			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目	試験				
評価方法					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「腎・泌尿器」成人看護学8, 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
健康科学		戸堀 文雄		秋田県総合保健事業団	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 将来、健康問題、健康管理に携わるものとして健康問題に関心を持ち適切な健康管理の仕方を学び実践していくことが求められる。そのことを念頭に置いて学習に臨んでほしい。					
科目のねらい・授業目標 健康で生活することの意義や健康保持増進及び身体・環境の相関について理解する。					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	1. 健康の定義・概念 1) 健康の理解 2) さまざまな健康のとらえ方		講義		
2回目	2. 健康の指票 1) 人口動態統計(出産、死亡、死産等) 2) 平均寿命、平均余命 3) 有病率、罹患率				
3回目	3. 健康に影響を及ぼす要因 1) 物理・化学的要因 2) 身体・生理的要因 3) 心理・精神的要因 4) 社会・文化的要因 5) スピリチュアル要因				
4回目	4. 日常生活と健康 1) 食事・栄養 2) 睡眠 3) 運動 4) 飲酒・喫煙				
5回目	5. ライフサイクルにおける各期の特徴と健康問題 1) 乳幼児期 2) 学童期・思春期				
6回目	3) 青年期 4) 成人・高齢期				
7回目	6. わが国における健康づくり対策の推移および現状 1) 第1次、第2次国民健康づくり対策 2) 「健康日本 21(第二次)」の進捗状況 3) 健康教育とヘルスプロモーション				
8回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験、GW への取り組み状況、出席状況					
使用するテキスト 医療学総論 メヂカルフレンド社					

科目名		講義担当		所属	
公衆衛生学		添野 武彦		秋田厚生医療センター	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 組織的保健活動の概要と意義について理解する。 1. 公衆衛生の基礎 2. 公衆衛生と地域保健 3. 公衆衛生と環境保健					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	公衆衛生学概論 疫学		講義		
2回目	保健医療論 人口保健統計				
3回目	母子保健 成人保健 老人保健				
4回目	精神保健 学校保健				
5回目	産業保健 環境保健 など				
6回目	討論会および発表会				
7回目	地域医療、保健福祉計画、感染症、環境衛生対策 (ディスカッション)				
8回目	試験・まとめ				
評価方法 中間・期末に筆記試験					
使用するテキスト 公衆衛生 NOUVELLE HIROKAWA					
参考文献					

專門分野

科目名 看護学概論		講義担当		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 看護学を学ぶ者が最初に学習する科目である。常に「看護とはなにか」という問いを念頭に置き、授業に臨むこと。					
科目のねらい・授業目標 1. 看護の本質・理論を学び看護の基本概念が理解できる 2. 看護の対象である人間を全人的(身体的・精神的・心理的・社会的側面の統合体)に理解できる 3. 看護の機能と役割及び看護活動を理解できる 4. 保健・医療・福祉における看護の役割について理解できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	看護学を学ぶ意味を理解できる。			講義・演習	
2回目	看護の本質を理解できる。 1. 看護の役割・機能 2. 看護ケアの本質			講義	
3回目	1. 看護の変遷を学び看護が社会とどのように関連し、変化・発展したのか理解できる。 2. 主要な看護理論を学び、看護とはなにか理解できる			講義	
4回目	看護の基本的な概念「人間・健康・環境」について理解できる。			グループワーク	
5回目	健康のとらえ方、健康に影響をおよぼすもの(生活リズム・生活習慣など)を理解する			講義	
6回目				グループワーク	
7回目	基本概念について他者の意見を聞いて理解を深めることができる			グループワーク発表	
8回目	1. 看護の対象としての人間について理解できる 1)個人、家族、集団 2)生活統合体としての存在 3)基本的欲求を持つ存在 2. 健康障害をもつ人の特徴			講義	
9回目					
10回目					
11回目	看護の機能と役割を学び看護活動を理解できる			講義	
12回目	1. 看護独自の機能 2. 関連職種の役割と調整機能			グループワーク	
13回目	看護活動について他者の意見を聞いて深める			グループワーク発表	
14回目	1. 保健医療提供システムについて理解できる 2. 保健医療提供形態とチーム活動について理解できる			講義	
15回目	チーム活動としての保健医療と看護の役割について理解できる			講義	
16回目	試験				
評価方法 筆記試験、課題レポート、グループワーク参加態度					
使用するテキスト 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会					
参考文献 「看護覚え書」ナイチンゲール					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
フィジカルアセスメント		中川 まゆ子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 1. 演習・技術試験に向け、自己学習時間を確保し技術練習をして臨むことが重要。 2. 実習室の準備・片付けは、注意事項に沿って確実にすること。					
科目のねらい・授業目標 1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を習得できる 2. 全体の概観、バイタルサインの観察、計測、系統別アセスメント、心理・社会状態のアセスメントについて理解できる 3. ヘルスアセスメントによって得られた結果を、実際のケアに結びつけていく態度を養う					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解できる 2. ヘルスアセスメントに必要な技術を理解できる		講義		
2回目	1. フィジカルアセスメントの基本技術を理解できる 2. フィジカルイグザミネーションについて理解できる		講義		
3回目	1. バイタルサインの観察に必要な基礎知識を理解できる 2. 計測の意味と定義を理解できる 3. 血圧測定 of 技術を習得できる		講義		
4回目	バイタルサイン測定 of 技術を習得できる		演習		
5回目					
6回目	バイタルサイン of 基本技術を正しく実施する		技術チェック		
7回目					
8回目	ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションについて振り返りを行い、理解を深めることができる		講義		
9回目	各器官・系統別のフィジカルアセスメント of 基本技術を理解できる 1)呼吸器系 2)循環器・血管系		講義	課題：頭部・頸部（リンパ節甲状腺）	
10回目	3)乳房・リンパ系 4)腹部・消化器系		講義	課題：眼・耳・鼻・口	
11回目	5)筋・骨格系 6)神経系 7)外皮系		講義	課題：直腸・肛門・生殖器	
12回目	心理・社会状態 of アセスメントに関する必要な項目とその内容を理解できる		講義		
13回目	フィジカルアセスメント of 方法を理解できる		グループワーク		
14回目	フィジカルアセスメント of 技術を習得できる		演習		
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験 課題プリント・アセスメント記録用紙					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院					
参考文献 看護がみえる フィジカルアセスメント vol.3 メディックメディア					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
基本的技術Ⅰ		川口 菜緒美		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
1. 事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと					
2. 看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標					
1. 看護技術の特徴について理解できる					
2. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる					
3. 感染予防の基礎知識が理解できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1. 看護技術の特徴と範囲を理解できる 2. 看護技術の実践のための要素を理解できる			講義	
2回目	1. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解する 2. 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション技法を理解する			講義	
3回目					
4回目	感染予防の基礎知識を理解する			講義	
5回目					
6回目	感染予防の基本技術を習得する			演習	
7回目					
8回目	試験 まとめ				
評価方法					
筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
基本的技術Ⅱ		川口 菜緒美		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
1. 事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと					
2. 看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標					
1. 療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントと調整について理解できる					
2. ベッド周囲と病床の環境整備、ベッドメイキング、リネン交換の技術を習得できる					
3. 姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理を理解できる					
4. さまざまな体位とその目的を理解し、体位変換の援助技術を習得できる					
5. 車椅子・ストレッチャーについて理解し、移乗の援助と移送の方法を習得できる					
6. 睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠に障害を持つ患者への具体的な援助を理解できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1. 療養生活の環境を理解できる 2. 病室の環境のアセスメントと調整について理解できる			講義	
2回目	1. ベッド周囲の環境整備を理解できる 2. 病床を整えることについて理解できる			講義	
3回目	ベッドメイキングの技術を習得できる			演習	
4回目					
5回目	基本的活動の基礎知識と睡眠・休息の援助を理解できる。			講義	
6回目	体位、移動(体位変換・歩行・移乗・移送)の技術を習得できる			演習	
7回目					
8回目	試験 まとめ				
評価方法					
筆記試験 課題レポート					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 看護過程		講義担当 川口 菜緒美		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 1. 看護過程の意義と一連のプロセスを理解できる 2. 事例患者を用いて看護過程を展開できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	看護過程の意義について理解できる			講義 グループワーク	
2回目					
3回目	看護過程の構成要素が理解できる			講義 グループワーク	
4回目					
5回目	意図的、系統的な情報収集法について理解できる			講義 グループワーク	
6回目					
7回目	アセスメント(情報の査定・看護問題の抽出)について理解できる			講義 グループワーク	
8回目					
9回目					
10回目	計画立案の具体的方法が理解できる			講義 グループワーク	
11回目					
12回目	計画の実施・評価もついて理解できる			講義 グループワーク	
13回目					
14回目	事例患者の看護過程を展開できる			講義 グループワーク	
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験 課題レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 NANDA-I看護診断 定義と分類 医学書院 緊急度・重症度からみた症状別看護過程 第3版 医学書院					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 日常生活の援助技術Ⅰ		講義担当 川口 菜緒美		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 1. 事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと 2. 看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標 1. 皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解できる 2. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助技術を習得できる 3. 病床での衣生活の基礎知識を理解し、寝衣交換の援助技術を習得できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1. 清潔の援助の基礎知識を理解できる 2. 病床での衣生活の援助の基礎知識を理解できる			講義	
2回目	全身清拭・寝衣交換の援助技術を習得できる			演習	
3回目					
4回目	洗髪の援助技術を習得できる			演習	
5回目					
6回目	手浴・足浴の援助技術を習得できる			演習	
7回目					
8回目	試験 まとめ				
評価方法 筆記試験 課題レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
日常生活の援助技術Ⅱ		小田嶋 陽子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
1. 事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと					
2. 看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標					
1. 食事援助の基礎知識が理解できる					
2. 食事摂取の援助技術を習得できる					
3. 排泄援助の基礎知識が理解できる					
4. 排泄の援助技術を習得できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1. 食事援助の基礎知識を理解できる			講義	
2回目	2. 食事摂取の基礎知識について援助の基礎知識を理解できる			講義	
3回目	3. 摂食・嚥下訓練について援助の基礎知識を理解できる			講義	
4回目	4. 非経口的栄養摂取の援助についての基礎知識を理解できる			講義	
5回目	食事摂取の介助技術および口腔ケアの技術を習得できる			演習	
6回目					
7回目	1. 自然排尿および自然排便の基礎知識を理解できる			講義	
8回目	2. 排泄の援助についての基礎知識を理解できる			講義	
8回目	1. 導尿について援助の基礎知識を理解できる			講義	
	2. 排便を促す援助の基礎知識を理解できる				
9回目	3. 浣腸について援助の基礎知識を理解できる				
	4. ストーマケアについて援助の基礎知識を理解できる				
10回目	陰部洗浄・オムツ交換の援助技術を習得できる			演習	
11回目					
12回目	一時的導尿の援助技術を習得できる			演習	
13回目	浣腸の援助技術を習得できる			演習	
14回目	日常生活援助技術			技術チェック	
15回目					
16回目	試験				
評価方法					
筆記試験 課題レポート					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
診療の補助技術Ⅰ		中川 まゆ子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 1. 事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと 2. 看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標 患者が安全・安楽に診療を受けるために必要な診療補助技術について理解できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	呼吸と循環を正常に維持するための基礎知識を理解できる			講義	
2回目	呼吸と循環のアセスメント方法と援助方法を理解できる			講義	
3回目	体温調整の仕組みと援助方法を理解できる			講義	
4回目	検査の目的・方法の基礎知識と援助方法を理解できる			講義	
5回目	褥瘡予防に必要な基礎知識を理解できる			講義	
6回目	褥瘡のアセスメント方法と援助方法を理解できる			講義	
7回目	口腔内・気管内吸引の看護技術を習得できる			演習	
8回目	試験 まとめ				
評価方法 筆記試験 課題レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

基礎看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 基礎看護学実習 I

実習目的	看護が提供されている場と看護の対象を理解する
実習目標	1. 看護が提供されている場としての病院を理解する 2. 実際の看護活動の見学を通して、看護師の役割を考える 3. 看護学生としての自覚を持ち、社会性を身につける

2. 基礎看護学実習 II

実習目的	看護が提供されている場と看護の対象を理解し、対象が目指す健康を考え、日常生活援助を実践することができる
実習目標	1. 看護が提供されている場を理解する 2. 看護の対象を身体的・心理的・社会的側面から理解する 3. 看護の対象を生活者として捉え、対象が目指す健康を考える 4. 根拠と留意点を考慮した日常生活援助の計画および実践ができる 5. 看護の対象者の反応を観察・記録・報告し、実践した援助行為について振り返ることができる 6. 看護学生としての自覚をもち、社会性を身につける

3. 基礎看護学実習 III

実習目的	健康障害にある人を総合的に理解し、その人に必要な個別的・計画的な看護を行うことで、基礎的援助の実践能力を養う
実習目標	1. 健康障害にある人の看護に必要な情報を身体的・精神的・心理社会的側面から総合的にとらえることができる 2. 健康障害にある人の情報を査定し、看護問題を抽出できる 3. 健康障害にある人の看護問題を優先順位にしたがい、問題解決のための計画（具体策）の立案ができる 4. 健康障害にある人の計画（具体策）を実践し、その成果を評価・修正することができる 5. 責任と協調性を重んじる行動がとれる

II. 実習方法

1. 実習単位・実習時期・実習期間

	実習単位	実習時期	実習期間
基礎看護学実習 I (病院を知る実習)	1 単位	1 年次前期	5 日間
基礎看護学実習 II (日常生活を知る実習)	1 単位	1 年次後期	5 日間
基礎看護学実習 III (看護過程)	1 単位	2 年次前期	10 日間

2. 主たる実習病棟：市立秋田総合病院・秋田厚生医療センター

3. 実習方法：実習要項参照

4. 実習配置：配置表を参照

5. 実習記録：既定の実習記録用紙を使用

6. 学内演習：実習要項参照

III. 実習の評価

1. 評価対象：実習記録、実習態度、自己学習、出席状況

2. 評価者：実習指導者と教員の両方で行うが、最終評価は教員が行う

3. 評価基準：実習評価表に基づいて評価する

4. 単位認定：単位認定は学則に基づく

科目名 秋田を知る		講義担当 新堀道生 丸谷仁美 藤中由美 三浦たみ子 藤本具子		所属 秋田県立博物館 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 1.秋田の歴史、特性を理解する。 2.秋田で暮らす人々の生活環境(食文化・居住文化・芸術文化・自然)を理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	秋田の歴史について理解する			講義	
2回目	秋田の食文化について理解する			講義	
3回目	秋田の自然環境について理解する			講義	
4回目	秋田の先人について理解する			講義	
5回目	秋田市の芸術・食文化・環境・住環境について調べ、秋田市の生活環境を理解する。 1・2限目:各グループにわかれフィールドワーク 3限目:グループで発表原稿まとめ 4限目:各グループ20分発表			1・2限 フィールドワーク 3限目 学内グループワーク 4限目 グループ発表	
6回目					
7回目					
8回目					
評価方法 課題レポート					
使用するテキスト なし					
参考文献 なし					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 暮らしの理解		講義担当 藤本 具子		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 ・調べ学習中心を中心とし、グループワークを実施する。					
科目のねらい・授業目標 地域で暮らしている人々の暮らす環境を理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	生活している人々のライフステージと発達課題を理解できる。 1)人生 2)家族・家庭 3)生涯発達			講義	
2回目	高齢者の現状と課題を理解できる。 1)高齢者の現状と課題 2)身体的特徴 3)高齢社会			講義	
3回目	私たちの生活と福祉を理解できる。 1)福祉のとらえ方 2)社会保障 3)共生			講義	
4回目	食生活の課題について理解できる。 1)食へるとは 2)栄養と食品、栄養バランス 3)安全と衛生			講義・グループワーク	
5回目					
6回目	衣・住生活の役割を理解できる。 1)着る 2)衣生活と環境			講義	
7回目	経済の役割を理解できる。 1)家庭の経済生活 2)消費者の権利と責任			講義	
8回目	試験				
評価方法 課題レポート					
使用するテキスト 特になし					
参考文献 家庭科の教科書					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
地域・在宅看護概論		井上 千鶴子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 在宅看護が必要とされる社会的背景をふまえ、在宅看護の概念と対象、活動の場、活動の特徴など、役割と重要性が理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	日本の在宅看護が推進される社会的背景と在宅看護のが変遷理解できる。 1.在宅看護の背景			講義	
2回目	在宅ケアにおける在宅看護の特徴・役割や機能を理解できる。 在宅看護における個人・家族と集団を対象とした目的や活動の特徴を理解できる。 1.在宅ケア 2.在宅看護と訪問看護 3.在宅看護の役割・機能			講義	
3回目	在宅看護の基盤となる基本理念とその概要を理解できる。 1.在宅看護を展開するための基本理念 2.在宅看護における倫理			講義	
4回目	在宅看護の対象者の特徴について理解できる。 1.在宅看護の対象と背景 2.法制度からみた対象者 3.ライフサイクルからみた対象者 4.健康レベルからみた対象者			講義	
5回目	5.疾患からみた対象者 6.障害レベルからみた対象者 7.生活の場からみた対象者 8.状態別・状況別対象者 9.地域社会における生活者としての対象者			講義	
6回目	在宅療養の成立要件を理解し、在宅療養者開始時に必要な支援について理解できる。 1.在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 2.在宅療養者への看護活動			講義	
7回目	在宅療養の場における家族の特徴について理解できる。 家族に関するアセスメントを理解できる。 療養者・家族双方に安全な在宅ケアを継続できるための支援について理解できる。 1.在宅療養の場における家族のとらえ方 2.在宅療養者の家族への看護			講義	
8回目	試験とまとめ				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論① メディカ出版					
参考文献					
公衆衛生がみえる 2021-2022 メディックメディア					

科目名		講義担当		所属	
暮らしと環境		井上 千鶴子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 地域・在宅看護概論終了後の講義とする。					
科目のねらい・授業目標 1.健康な暮らしを支える看護、看護が提供される場、地域で暮らし続けるためのマネジメントなどを理解できる。 2.保健・医療・福祉活動の中で看護の役割を理解し、関係職種との連携・チームケアの重要性を理解できる。 3.地域で療養しながら療養する人、及び障害を持ちながら生活する人とその家族への理解を深める。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	地域で療養する人を支える社会資源の種類や関連職種を知り、チームケアの連携について理解できる。			講義	
2回目	1.地域包括ケアシステム、地域包括支援センター 2.療養の場の移行に伴う看護 3.地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携			講義	
3回目	社会資源活用における看護師の役割を理解できる。 1.社会資源の活用 医療保険制度の概要、給付の仕みが理解できる。 1 医療保険制度 2.高齢者医療制度			講義	
4回目	介護保険制度について理解できる。			講義	
5回目				講義	
6回目	生活保護制度について理解できる。			講義	
7回目	在宅ケアシステムにおけるケアマネジメントの方法と必要性を理解できる 1.在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント 2.介護保険制度におけるケアマネジメント			講義	
8回目	訪問看護の目的、制度、実施機関、法的責任および訪問看護師の役割を理解できる。 1.訪問看護の特徴 2.在宅ケアを支える訪問看護ステーション			講義	
9回目	訪問看護における看護過程と記録の意義や留意点について理解できる。 1.訪問看護サービスの展開 2.訪問看護の記録			講義	
10回目	在宅看護における危機管理の原則と基本を理解できる。 1.在宅療養の場で起こりうる事故の予防と対応 2.在宅医療におけるリスクの特徴			講義	

	在宅療養の場におけるリスクの特徴と日常生活の場で発生する可能性のある事故や問題に対する予防策を理解できる。 1.日常生活における安全管理 2.家屋環境の整備 3.倒転落の防止 など		
11回目	対象別在宅療養者とその家族を支える制度と社会資源について理解できる。 1.在宅難病療養者を支える制度と社会資源 2.子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 3.高齢者施策	講義	
12回目	在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源が理解できる。 1.日常生活自立支援事業 2.成年後見制度 など	講義	
13回目	障害者の地域での暮らしを支える制度と、実践の場での支援を理解できる。 1.障害の定義 2.障害者を支える法律と制度 3.実践の場での障害福祉サービス	講義	
14回目		講義	
15回目		講義	
16回目	試験		
評価方法 筆記試験			
使用するテキスト ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論① メディカ出版			
参考文献 公衆衛生がみえる 2021-2022 メディックメディア			

秋田市医師会立秋田看護学校

地域・在宅看護論臨地実習

地域・在宅看護論実習 I

I. 実習の目的・目標

実習目的	1. 地域で生活している療養者・障害を持っている者、要介護者・その可能性のある者への理解を深める。 2. 地域の保健・医療・福祉サービス機関と連携しながら、対象に応じた看護を実践するための能力と態度を養う。
実習目標	1. 地域の保健・医療・福祉領域の社会資源について理解を深め、関係機関・職種と連携・協力して必要な援助が実践されていることを学ぶ。 2. 地域で生活している対象の特性を理解する。 3. 住み慣れた地域で安心して生活できるように支援が行われていることを理解できる。 4. 実習に対して主体的に取り組む姿勢を持てる。

II. 実習方法

1. 実習単位：2単位

2. 実習時期：1年次後期

3. 実習期間：10日間

4. 実習施設：

5. 主たる実習病棟：なし

6. 実習方法

1) 地域包括支援センター、高齢者施設、障害者施設などへの実習

2) デイサービス・ショートステイなどの介護保険サービス事業所、障害者(児)施設などへの実習

3) 学内実習：ポスターセッション用の資料作成、発表原稿作成など

4) グループによるプレゼンテーション

5) 実習配置：配置表を参照

6) 実習記録：既定の実習記録用紙を使用

実習記録1～3号紙

7. 学内演習

プレゼンテーションにおける学内学習について

学習目的	1. 地域における保健・医療・福祉活動の実際を知り、関係職種の連携と看護の役割について考察することができる。 2. 実習の振り返りを行うことで自身の課題を明確にし、知識を得てケアに活かす機会とする。
学習内容	1. 教員から個別に指導を受ける。 2. プレゼンテーション、ポスターセッションの資料作成などを実施するが、実習の進度に応じて学習内容を担当教員から指示を受ける。
時間数	18時間(8:30～12:15・13:15～16:15)2日間を学内学習とする。

8. その他

III. 実習の評価

1. 評価対象：実習要項に沿って評価する。

2. 評価者：実習担当教員、臨地実習指導者

3. 評価基準：評価表に基づく。

4. 単位認定：

科目名 社会の中の成人看護		講義担当 高橋 文子		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 1.成人期の人々の発達の特徴と課題、健康特性、役割を理解する。 2.健康に影響する諸因子を理解し、保健に必要性を理解する。 3.成人保健の動向を知り、健康な生活を維持増進するための看護の役割を理解する。 4.成人期の心身・社会的成熟・適応に関する知識を深め、心身・社会的成熟・適応を促すための看護理論を理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	成人の特徴を理解できる。			講義 グループワーク	
2回目					
3回目	成人保健の動向を理解できる。			講義 グループワーク	
4回目	成人期における健康問題を理解できる。			講義 グループワーク	
5回目	健康の維持・増進・疾病の予防に向けた看護を理解できる。			講義 グループワーク	
6回目					
7回目	成人の能力や生活背景をふまえた看護援助が理解できる。			講義 グループワーク	
8回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 成人看護学概論 医学書院					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 高齢者を支えるための看護		講義担当 藤本 具子		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 高齢者の医療福祉の動向を理解し、対象とその家族に対する看護の役割を理解できる。 1.高齢者の生活と健康問題について理解できる。 2.高齢者の権利擁護を理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	加齢と老化を理解できる。 1)身体的・心理的・社会的側面の変化 2)高齢者の定義 3)老年期の発達課題 4)高齢者を支える家族の看護			講義	
2回目	高齢者を支える制度と社会資源の活用を理解できる。 1)ヘルスプロモーション 2)健康日本 21 と介護予防 3)地域包括ケア 4)家族への援助			講義	
3回目	高齢者の権利擁護を理解できる。 1)スティグマと差別 2)高齢者の虐待・身体拘束 3)権利擁護のための制度			講義・グループワーク	
4回目	老年看護のなりたちを理解できる。 1)老年看護の役割と特徴 2)老年看護の理論・概念 高齢者のヘルスアセスメントを理解できる。 1)身体加齢変化とアセスメント			講義	
5回目	高齢者疑似体験			演習	別紙資料参照
6回目	高齢者の終末期の看護を理解できる。			講義・グループワーク	
7回目	高齢者特有のリスクとリスクマネジメントを理解できる。			講義	
8回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学					
参考文献					

